

月日：令和7年11月26日（水）

時間：9：40～12：25

場所：横山小学校 集会室



□授業参観	9：50～10：20
□学校運営状況の報告	10：30～10：50
□学校運営等への質疑・応答	20分 10：50～11：30
□熟議テーマに関する話し合い	11：30～12：00
□給食の試食	12：05～12：25

#### ◇学校運営状況の報告 斎藤優子 校長より

- 学校行事と各教科の授業や総合的学習との関連を大切にしたカリキュラム・マネジメントに取り組み、子どもにつけたい資質や能力を中心において学びの繋がり（連続性）を重視して教育活動を行ってきた。
- 2学期は、「つなぐ」を大切に、実りの多い2学期をめざしてきた。10月18日の学習発表会でもその学習活動で育んだ力を見ていただいた。
- 新たな一歩の年にあたり創立記念式では、本間武同窓会長に話をしてもらった。少年時代に夢中になることを見つけることが、大人になっても役立つことを自分の体験から語っていただいた。この時期の子どもたちにとってよい意識づけをしていただいた。
- 全国学力・学習状況調査の結果をみると、国語は「考えを比較しながら自分の考えをまとめる」と「目的に応じて必要な情報を見つける」ことなど本校のよさがみられた。課題になるところとして「分類・関係づけて伝え合う内容を検討する」や「考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことがあげられる。算数では「コンパスを用いた平行四辺形の作図」や「10%増量を解釈し表に表す」ことがよく、「目的に応じたグラフの選択理由の記述」や「台形の意味や性質についての理解」といった根拠に関わる点が課題であった。理科については県平均を大きく上回る結果であった。実験や体験に基づく学びの大切さを再認識している。
- 児童の質問調査の結果では、「自分にはよいところがある」「先生は自分のよいところを認めてくれる」「人が困っているときは進んで助ける」「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」等々、よかったですが多くあった。各担任が子どもたちを細やかに見ていることや学年を超えた児童間の関係性がよいことの現れでもある。課題となるところとして学校以外での1日当たりの勉強時間があげられる。全国的には、1時間から2時間までの間にピークがあるのに対し、本校は1時間未満にピークがある状況だった。また、新聞を読んでいる児童は少

なく活字離れが心配されたが、「読書は好き」と回答しているので視野を広める工夫をする必要がある。

○いじめに関わるアンケート調査（5月・10月実施）から見ると、昨年度の認知件数からは減少傾向にある。重大事案はないが、「いじめは決して見逃さない」「どの子にも起こり得る問題」というスタンスで、互いの「心の向き方」を大切に今後も注視していく。

○体力テスト結果では、よかったところが20mシャトルランや50m走だった。課題となるところとして、上体起こし（筋力・筋持久力）立ち幅跳び（瞬発力）ソフトボール投げ（瞬発力や身体を巧みに使う能力）があげられました。教科体育だけでなく休み時間などでも様々な運動を経験させていきたい。

○魅力ある学校づくりに関わる調査では、比較的よい傾向にあるものの、さらに前向きに生活できる児童が増えていくように、主体的に取り組める活動を工夫していきたい。

○本校の危機管理に関しては、自然災害等への対応として災害備蓄食品を購入し備えている。また、クマ対策として、教育委員会の指導をいただきながらPTA会長と連名でクマ出没時の基本的な対応を保護者あてにお願いした。見通す力や横山しぐさ（ルールを守る）の指導、児童会活動を推進しながら折り合いをつけて生活することを大切にしていくことで、怪我防止にもつなげていきたい。

○教員の働き方改革については、年度当初の教職員未配置となったことが影響してか、教員の時間的負担がみられた。2学期より学校運営の一部見直しを行いながら、教員の勤務時間の軽減につなげられるように努めている。

○令和8年度に向けた教育課程の方向性として、日課表の変更を考えている。通年5時間授業や朝読書で静かに始業準備をすること、清掃後に短時間学習の実施、授業日数の2～4日増加など今後調整し第3回の学校運営協議会で説明したい。



#### ◇学校運営状況についての質疑 各委員より

・家庭での学習時間について、勉強をしたいが家庭状況で負担を抱え学習できないという児童はないのか。

→特にそのような事情を抱えている児童はいない。

・タブレットの家庭持ち帰りの状況はどの程度か、またそれに伴うトラブルの状況はどうか。

→昨年度より持ち帰りは増えている。持ち帰った時のマニュアルは町で定めているが、不適切なアクセス（ゲーム等）の事例があったので指導している。

- ・タブレットを使う児童もいれば教科書を使う児童もいた。授業で使っているタブレットの資料はどのようにしているのか。  
→担任が教科で使う資料をあらかじめ配信する場合もある。
- ・子どもがタブレットだけでなくスマートフォンなどを家庭で利用する場合の、保護者向け研修（子ども巻き込まれる課金や犯罪トラブルを防ぐため）が必要なのではないか。
- ・全国学力・学習状況調査の学習時間は、宿題だけでなく塾等での学習時間も含むのであれば、全国平均を下回ることは理解できる。新聞離れについても気にはなる。現状からみると学校の方針にあったように視野を広げる手立てを考える方向に賛同する。
- ・ある程度距離をおいて孫たちを見るようになった。子どもたちの言葉づかいがきつく気になることがある。
- ・怪我防止の点で見通す力やルールを守るなどの対応をしていただいているようだが、実際どのような怪我の発生があるのか。  
→ボールを蹴ったり、壁に強くボールを投げつけて跳ね返りが別の子に当たったり、遊びに熱中しすぎて守るべききまりを破ったことでの怪我などであり、心を落ちさせ周囲を気にすることも大切と考える。
- ・「いじめ」については、大人の力を借りて解決したようにみえても、成長と共にその記憶がトラウマになることもある。それだけ丁寧に「いじめ」を受けた児童と関わった児童に諭していくことが大切。

#### ◇熟議テーマについての話し合い

（時間の関係で添付資料の説明を行いました。）

##### 質問事項

- ・義務教育学校、義務教育小中一貫校等へ転校した場合はどうなるのか。
- ・小学校での教科担任制の導入は進んできているのか。